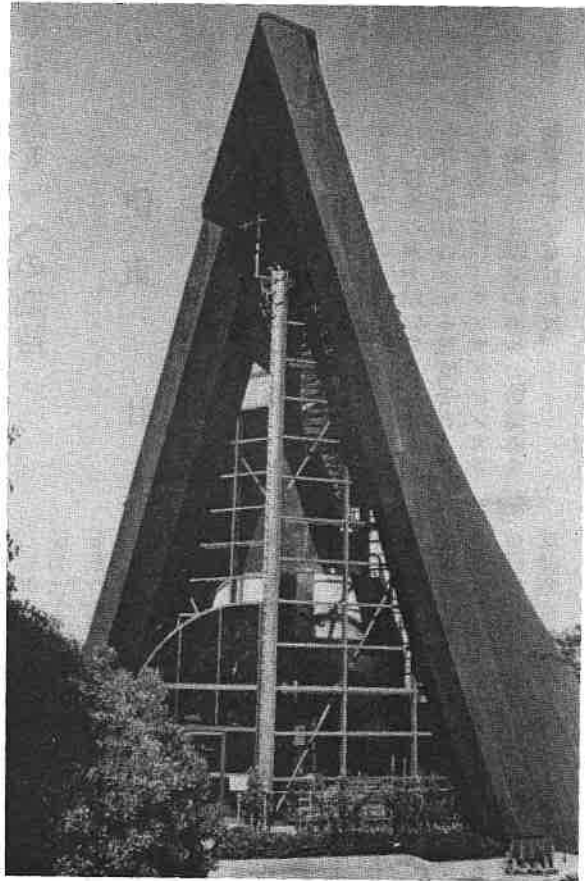


福竜丸だより

都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財) 第五福竜丸平和協会
〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494



写真・英伸三

新年にあたって

三宅 泰雄

新年おめでとございます。
本協会創立以来、今年で十六年目、展示館の開館以来、十三年目となり、どちらにも、そろそろ、青年期を迎える

ことになりました。
この間の東京都をはじめ、皆様方のご支援にたいし、厚く御礼申し上げます。
展示館の方は、夢の島公園の整備と、交通の便とともに、ここ数年、来観者が急増し、現在の職員数では、応対し切れぬくらいになりました。その上、事務室も手狭で、館の建物自体にも故障が出はじめました。これらのことを東京都にお願いして、早急に改善をはかりたいと考えています。
協会の業務も、徐々に拡充してはきましたが、収入の方が頭打ちとなっています。このため、いまだに役員の方々は、無料奉仕をお願いし、広報活動なども、十分にできない有様です。この状態を開するには、賛助会費の増額が望まれますが、これも数年、横ばいとなっています。

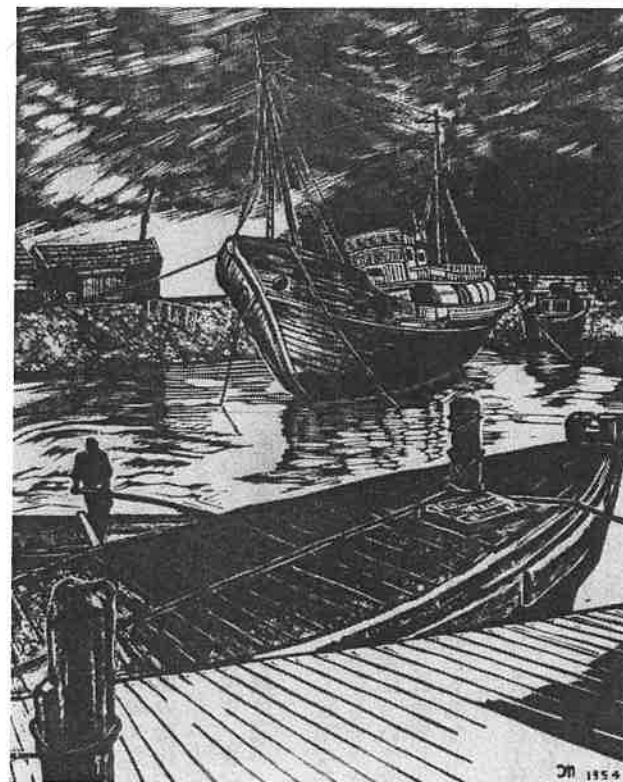
新年早々、泣ごめいたことを申し上げましたが、この上も皆様に助けただけのよう、お願いいたします。
国際的には、一昨年の米・ソ間の「中距離核戦力削減条約」、昨年末の国連でのソ連のゴルバチョフ書記長による、回国の軍縮案に関する発言など、評価に値する動向が続いています。私たちも、ささやかながら、今年も、平和のため、いっそうの努力を重ねたいと考えています。

(第五福竜丸平和協会会長)

第五福竜丸をとらえる……

作品介绍⑨
上野 誠

鳩、広島、長崎を刻み続けた版



1954・3・1ビキニ被災後、焼津港に帰った第五福竜丸(1954年)



「夢の島」東京湾埋立地の廃船・元の第五福竜丸(1970年)

被災「廃船」と異なる第五福竜丸の姿を、その最も早い時期に描いた(刻んだ)画家は、氏の他に知らない。

「原子野」シリーズ(六八年)は、縦一メートルにおよぶ大作であり、「原爆の長崎シリーズ」(六一年)は、十五年以上にもわたる毎年刻み続けられた。

二十代後半、上野はドイツの民衆画家ケーテ・コルイッツの存在を知り、傾倒する。「コルイッツとの出会いは、いつもわたしを初心に帰らせてくれる」と、語っていたように、氏の版画は木版のもの、鋭さと生命力、またやさしさに溢れている。作品の随所にある手は、特に鮮烈である(S)。

新しいパンフレット

発行が長く望まれていた新しいパンフレット『第五福竜丸』が完成しました。B6判16頁のコンパクトなもので、表紙二色刷。写真も豊富で見開きごとに一文章がまとまり、活字も大きくわかりやすくなっています。ブラボー爆弾、ビキニの悲劇、「死の灰」降る、水爆最初の犠牲者、保存運動始まる、東京都の援助、展示館の完成の七章より成り、展示館の案内が地図と共にのせられています。表紙はじめ展示館内の写真は英伸三氏が撮影。同じ体裁・内容で英語版「THE LUCKY DRAGON」も同時に発行されました。

●三・一ビキニ事件記念集会

日時・二月二十八日(火)
午後六時半〜九時

場所・文京区民センター3A会議室(AJR線「水道橋」または「地下鉄」春日「後楽園」下車徒歩)

記念 柴田徳衛氏(東京経済大学教授)、猿橋勝子氏(協合理事)

講演 済大教授、猿橋勝子氏(協合理事)
映画 「とびうおのぼつやはびょうきです」
主催 第五福竜丸平和協会

一九八九年「第五福竜丸」への期待

伊東 壮

「Xデー」が到来すれば、「昭和」への回顧という洪水でマスコミは浸かりばなしになるであろう。しかし、その大半は天皇との関係で「昭和」をあげつらうに違いない。下手をすると、らん熟の果てに発生し続けるリクルートなどの構造的腐敗へ、天皇イズムという古くからの倫理観をもちだして、特効薬とする手合いすら出てこないとも限らない。しかし、「Xデー」を契機に、天皇との関連で歴史が語られ、その評価が行われるとすれば、それは正しい意味での歴史を振り返ることにはならない。民衆を欠落させて、戦争も戦後も不当の姿はないからである。

下されなければ、という大きな「もし」から始まって、もし、太平洋戦争がおきなければ。もし、戦争がもう少し早く終わってあれば。もし、もっと早く被爆者への救援の手がさしのべられていれば。もし、日本の権力がいち早く核兵器を許せぬものとする態度をとってあれば。もし、サンフランシスコ平和条約で原爆被害への賠償権を放棄していなければ。……

日本被団協の85年の被爆者調査も示している通り、多くの被爆者の原爆投下以来の人生は、絶えざる人間崩壊の危機とそれへの闘いであった。しかも、そのような苦難は自分の不注意から発したのではなく、まさしく国家という社会組織の意図から生みだされたものであった。だから、この「もし」の羅列は、国家による加害の歴史そのものである。被爆者にとってその個人史にたち現れる国家は、魔王のように災いをもたらした

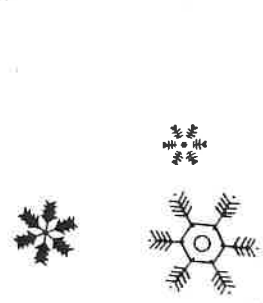
続けたものである。

しかし、被爆者の個人史には、もう一つ別な社会組織が別の役割をもって登場する。その社会組織は民衆の組織であり、国家組織の絶えざる加害に対抗しそれをはねのけて、被爆者の果敢な闘いを援助支援する役割を果たしつつづけて来たものである。すなわち、それはビキニ水爆実験による第五福竜丸の被災に端を発した原水爆禁止運動であった。この運動は戦後日本の最大、最長の民衆運動として、国家政策にも一応「非核三原則」の確立という影響をあたえ、さらに国家の枠を超えて、世界の核軍拡競争を転換させようとしてきているのである。この民衆の大運動を抜いては戦後の歴史は何も語れないとさえいえよう。

どこでも流行の「21世紀への展望」は20世紀への深い反省がないかぎり本当は生まれ得ないものである。この一〇〇年、日本の権力は世界の民衆と日本国民のしあわせのために、どんな貢献をしてきたであろうか。こうした視座から歴史をふり返る時、民衆の手で日本の枠をこえて世界の人民の幸せに貢献しつつづけてきている原水爆

禁止運動とその出発点となった第五福竜丸の存在は、21世紀を構築していく日本人にとってそれが包含する深い歴史的な意味をじっくりとかみしめ、その中からポジティブな未来構築の展望とエネルギーをくみとるべきであろう。

(山梨大学教授・日本被団協代表委員)



平和随想 (五)

三宅 泰雄



本協会の専務理事、また都立第五福竜丸展示館の管理主任として本協会の設立と発展につくされた広田重道さんが亡くなって、はやくも、八年目を迎えることになりました。

広田さんは一九〇七年(明治四



ワシントン州立大学教授・リチャーズ博士(右から二人目)らと記念撮影。右 三宅、左から二人目 広田氏。

十年)、東京の生まれ、私より一つ年上の先輩でした。広田さんは幼ないころ、家族の離散などの不幸にまわれ、小学校をおえたばかりで、海軍省・水路部の給仕に出されました。しかし、この少年はつよい向学心の持ち主で、夜は正則英学校や開成中学校に通っていました。

広田さんは、きわめて聡明な若者だったと見え、はやくも十六歳のころから、社会主義について学び、しだいにその教えに傾倒し、反戦同盟などの運動にも参加しました。

そのため、苦心して入った上智大学からは退学処分、その後も、しばしば投獄の憂き目にあい、また国外への亡命を余儀なくされるなど、散々な目にあっていました。

治安維持法という無類の悪法が制定されたのは一九二五年(大正十四年)のことでしたが、広田さんも、この法による多くの犠牲者の一人でした。

戦後、広田さんは、核兵器禁止と国際管理を訴えたストックホルム・アピールに共鳴し、アピール支持署名運動の先頭に立ちました。その結果は、占領下にもかかわらず、全国から六四五万もの賛同を集めることができました。

第五福竜丸ビキニ事件がおきたのは、一九五四年三月のことでした。この事件を契機として、原水禁運動が始まり、年末までに、二千万以上の署名が寄せられました。広田さんは、その一環として、地元横須賀市で、大集会を組織し、成功を収めました。

その翌年、第一回原水爆禁止世界大会が広島市で開かれました。広田さんは、参加者の便宜のために、東京―広島間に特別列車「白鳩号」を走らせるなど、並々ならぬ努力をしました。この頃から、広田さんは平和運動に専念し、日本平和委員会や、原水協の発足にも力をかかっています。

第五福竜丸は、東京水産大学の練習船「はやぶさ丸」となっており、十年のち廃船となり、夢の島に捨てられました。この廃船が「第五福竜丸」と判明し、その保存を望む声が高まってきました。

私たちが、美濃部東京都知事を中心として「第五福竜丸保存委員会」を結成したのは、その三年後のことでした。私たちは、広田さんに、東京都庁内に新設した事務室に常駐してもらい、都との間の交渉を一任しました。

その結果、委員会は第五福竜丸の船体を都に譲渡、都はその保存

展示を約束することになりました。ついで、新設が予定された展示館の運営のため、財団法人「第五福竜丸保存平和協会」が設けられ、広田さんが専務理事の要職に就きました。

展示館が夢の島公園予定地の一郭に完成し、一般に公開されたのは、一九七六年六月のことでした。広田さんはその前にも、久保山愛吉記念碑の建立、「ビキニ水爆被災資料集(東大出版会)」の出版に力を注ぎました。

広田さんは展示館の館長格として、自ら多くの参観者に話しかけました。ビキニ事件、核兵器と平和の問題などについての広田さんの話は、人々に多大な感銘を与えました。

展示館を訪れる外国人も多く、また、広田さん自身も、何度か国際会議に参加しているため、平和運動家としての広田さんの名前は国際的にも、よく知られています。

展示館の発足以来約六年、広田さんは心臓疾患のため、惜しくも一九八二年四月、この世を去りました。享年七十四才。私たちは、広田さんの遺志をつぎ、平和のため、少しでも、お役に立ちたいと心に定めています。